

別 記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 10月 29日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
大阪市北区大淀中1丁目1番30号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
ダイハツディーゼル株式会社
代表取締役社長 堀田 佳伸

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
事業者行動計画を策定 (変更)
事業者行動報告書を作成
したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	ダイハツディーゼル株式会社 代表取締役社長 堀田佳伸
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪市北区大淀中1丁目1番30号 梅田スカイビルタワーウエスト17F

1 事業者の概要

事業所の名称	ダイハツディーゼル(株)守山事業所 守山第一工場						
事業所の所在地	滋賀県守山市阿村町45番地						
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	3	1	3	4	※ 産業分類・細分類名称を記載 舶用機関製造業	
事業の概要	陸・舶用内燃機関製造						
従業員の数	714 人			操業時間		約8 時間/日	
該当する事業者 の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者						
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者						
	☐ 任意提出事業者						
主要な設備	ボイラ	4	台	熱源設備	台	照明設備	台
	コンプレッサ	14	台	空気調和設備	台	その他	

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始 年度	2022	年度	報告対象年度	2023	年度
	終了 年度	2026	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

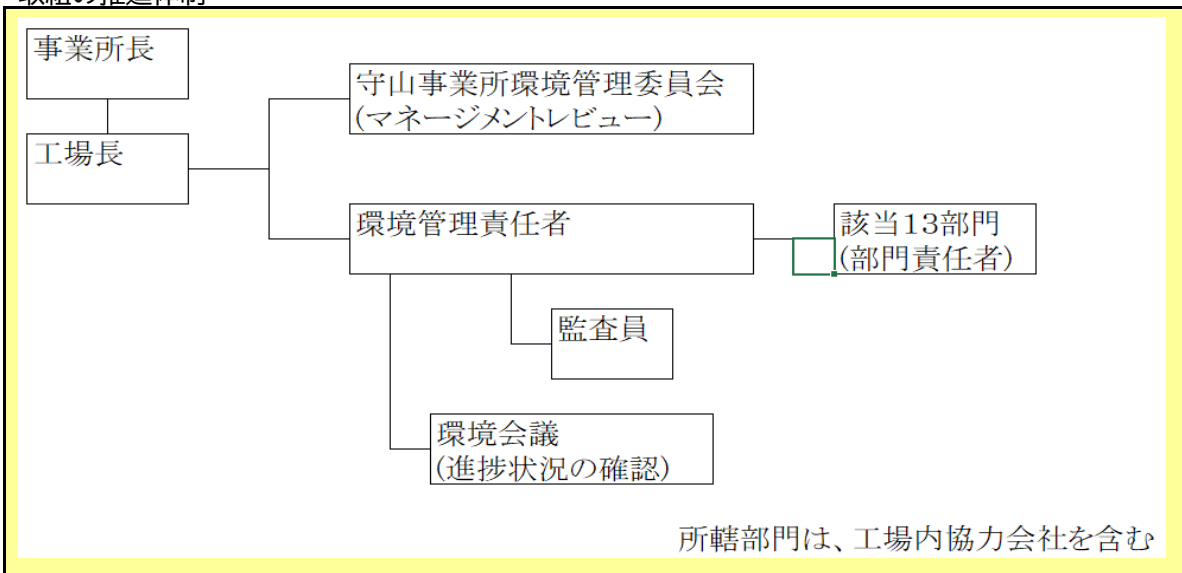
1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私たちダイハツディーゼル株式会社 守山事業所ならびに事業所内協力会社の全ての社員は、琵琶湖に接する豊かな田園都市にあって、このすばらしい地球環境を未来へ引き継いでいくことの重要性を認識し、環境保護 と 汚染予防 に努め、環境と人々との共生を目指し、予防管理とルール遵守に努め、環境汚染事故・不祥事を未然に防ぐ取組を行います。

【行動方針】

- 1, 私たちは環境に関わる法規制、協定類ならびに同意したその他要求事項を順守します。
- 2, 私たちは当事業所における生産活動、製品及びサービスを対象とした環境パフォーマンスを向上させる為に環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善に進め環境保全活動に取り組めます。
- 3, 私たちは、環境事故を防止するために、自然災害に起因する事故も含めた対応策を検討・構築し、計画的に実施します。
- 4, 私たちは環境保全活動の重点推進事項として次の項目を設定し、積極的な取り組みを展開します。
 - (1) 地球温暖化を防ぐため、使用エネルギーの削減に努めます。
 - (2) 環境汚染を防ぐため、廃棄物の削減に努めます。
 - (3) 資源の枯渇を防ぐため、資源の有効利用に努めます。
 - (4) 製品のライフサイクルを通じて、環境負荷のより低い商品開発に努めます。
 - (5) 自然生態系並びに生物多様性の維持保全に努めます。
- 5, 私たちは、この環境方針を達成するため、環境目的・目標を定めて環境保全活動を推進するとともに、定期的な見直しを行います。
- 6, 私たちは全ての社員がこの方針の意義と個人の役割を理解するため、積極的な周知活動を展開します。
- 7, 私たちは、この環境方針を必要に応じて社内外に公表します。

2 取組の推進体制

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

- ・1995年 4月～ 空調機をEHPからGHPに順次切り替え
- ・2000年12月26日、ISO14001環境マネジメントシステムを守山事業所として認証取得。
- ・2006年 8月 自家発電設備1号機(A重油仕様)を都市ガス仕様へ換装のため撤去
- ・2007年 3月 自家発電設備1号機(都市ガス仕様)を設置
- ・2007年 9月 暖房用ボイラーを廃止(A重油仕様)、逐次、ガス輻射熱暖房機へ変更
- ・2011年 6月 試運転機関用冷却水圧力の定圧化(インバーター制御)
- ・2011年12月 厚生施設と夜勤職場の照明を、センサー点灯化へ切り替え
- ・2012年 6月～ 天井灯を省エネ機器へ順次取り替え
- ・2012年 9月 自家発電2号機をディーゼル機関からガス機関へ変更
- ・2013年 1月 試運転工程で発生する電力を回収し、社内で使用
- ・2013年 3月 工場建屋屋根に太陽光発電設備を設置(38.4kw)
- ・2013年10月 工場建屋屋根に太陽光発電設備を設置(60kw)
- ・2013年11月 工場建屋屋根に太陽光発電設備を設置(200kw)
- ・2014年 7月 各ボイラー燃料を重油から都市ガスへ変更
- ・2016年 9月 工場エアコンプレッサーを、タイマー運転から圧力を検知し台数制御運転に変更
- ・2021年 7月 自家発電設備3号機(ガス機関)設置

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	空調設備の効率向上を図り、月2回のフィルター清掃を実践する	継続実施	継続実施中
2	運用改善	工場建屋の空調機設定温度固定(冷房時)	継続実施	継続実施中
3	運用改善	デジタル機関の試運転時間の削減	継続実施	継続実施中
4	設備導入	工場エアコンプレッサーを、タイマ運転から圧力を検知し台数制御運転に変更	平成28年9月～	継続実施中
5	運用改善	一斉定時日によるライトダウン(4回/年)	令和元年4月～	継続実施中

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
目標:2021年度の温室効果ガスの排出量を毎年1%削減(2023年度は8,613tCO ₂)	化石燃料仕様の製品の生産が減り目標達成

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	(2025)年度	(2026)年度
原油換算エネルギー使用量	kL	4,725	5,022	4,876			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	8,793	8,595	8,347	0	0	0
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	8,793	8,595	8,347			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0	0	0
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光発電設備増設
2	再生可能電力の購入を検討
3	森林吸収J-クレジットの購入
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	298.4 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	333,537	349,840	280,251			
上記のうち自家消費量	kWh	0	0	0			

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
①デュアルフューエル機関の生産 ②次世代燃料(アンモニア燃料、水素ガス燃料等)対応エンジンの開発 ③特定地域のサプライヤーを対象とした、ミルクラン納品の導入 ④出荷する製品の一部を鉄道コンテナ輸送に転換	①2023年度は35台生産 ②各種試験開始中 ③2023,9～実施 ④2022,9～実施

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
①条件に応じて天然ガスを燃料とするガスモードと液体燃料を使用するディーゼルモードの切り替え運転が可能なデュアルフューエル機関でガスモードではCO ₂ を約28%、SOXを約90%削減可能。 ②温室効果ガスの削減 ③温室効果ガス 従来比59%削減 ④温室効果ガス 従来比77%削減

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価

目標の進捗に対する自己評価
①順調に推移しているが、次世代燃料へとシフトしていく予定 ②遅れているのがGHG削減ロードマップに則り、推移中 ③④順調に推移

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年	()年	()年	()年	()年
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
グリーン証書の購入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂	0	0	50			
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	
1				
2				
3				

(4) 業務で使用する車両の脱炭素化の取組

		計画開始年度 前年度の実績 保有台数	実績報告				
			()年	()年	()年	()年	()年
保有車両の数	台						
上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施スケジュール	
1	生物多様性	工場周囲水路を清掃し、環境保護に努めている。	1回/週	実施中
2	3R	硬質プラスチック類(樹脂パレット、プラスチックコンテナ、樹脂製電線ドラム)を売却し廃却量の削減、計測機器等の基盤を分別してアタルの回収する	硬質プラ4,000kg/年 基盤200kg/年目標 (守山1、2工場合計)	硬質プラ 6,060kg/年 基盤 164kg/年 回収 (守山1、2工場合計)
3	その他	滋賀低炭素ブランド 2019認定取得	2019年度	2019年10月16日認定
4	生物多様性	令和3年度しが生物多様性取組認証 3つ星獲得	2021年度	3月25日3つ星獲得
5				